



【2022年度休眠預金活用事業】
堺市における地域の居場所のトータルコーディネート事業
～校区単位のアセスメントを基盤とした居場所の総合化による地域づくり～

居場所活動に関するアンケート調査報告書

【概要版】

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会



目次

はじめに 2

調査の概要 3

第1章 福祉委員会調査 5

- 居場所活動（グループ援助活動）の取組と困りごとの相談先
- 居場所活動（グループ援助活動）を継続できる理由
- 居場所活動の団体や活動支援機関との連携
- 居場所活動を行う団体や活動支援機関と今後のつながり
- 居場所活動（グループ援助活動）の課題
- 居場所活動（グループ援助活動）を通じて感じる地域のよい点

第2章 子ども食堂調査 13

- 子ども食堂の活動のきっかけと続けられている理由
- 子ども食堂を続けていく上での課題
- 子ども食堂と地域の連携について
- これからの活動について

第3章 団体・機関調査 20

- 本来の業務として行う居場所活動について
- 地域貢献としての居場所活動について
- 地域や他団体の居場所活動への支援や交流について

はじめに

堺市社会福祉協議会（以下「堺市社協」という。）は、居場所活動の推進に向けた基礎資料とするために「居場所活動に関するアンケート調査」（以下「本調査」という。）を実施しました。^(※)

本調査への回答にご協力いただいた方々にお礼申し上げます。

堺市社協は、より多くの方々に調査の結果をご覧いただきたいと考え、本調査の報告書を抜粋し、「居場所活動に関するアンケート調査報告書【概要版】」（以下「概要版」という。）を作成しました。

※堺市社協は、認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえが資金分配団体となっている2022年度休眠預金活用事業の実行団体として採択され、令和5年度から8年度にかけて「堺市における地域の居場所のトータルコーディネート事業～校区単位のアセスメントを基盤とした居場所の総合化による地域づくり～」を推進しています。

報告書の見方

- 回答は各質問の有効回収数（N）を基数とした百分率（％）で示しています。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- 選択肢項目の回答に関連する記述を自由記述の項目から抜粋し、◆■★記号で掲載しています。
- ◆ は、主に前向きや積極的な取組に関する記述です。
- ■ は、主に課題解決に関する記述です。
- ★ は、その他の記述です。

調査の概要

調査の目的

居場所活動に関する現状や課題、活動に携わる方々の思いを把握し、地域の状況に応じた支援や連携を広げるための取組を検討、推進することを目的に、居場所活動や活動への支援を行っている、あるいは、今後の取組を期待する団体・機関などを対象に本調査を実施しました。

調査対象と方法

○大阪公立大学 東根ちよ研究室に調査を委託し、以下のとおり調査を実施しました。(※)

※「休眠預金活用事業『堺市における地域の居場所のトータルコーディネート事業～校区単位のアセスメントを基盤とした居場所の総合化による地域づくり～』における評価監修および調査業務」を、堺市社協が大阪公立大学 現代システム科学研究科 東根ちよ研究室に委託しました。

福祉委員会調査

対象	方法	有効回収率	期間
福祉委員会(※) 92校区	自記式質問紙方式 堺市社協各区事務所の日常生活圏域コーディネーターが福祉委員会の役員や居場所活動担当者を訪問し、意見を聴き取り記載する方法で実施しました。 (一部の校区は郵送での返却あり)	100%	令和5年 7月～9月

※福祉委員会名は、小学校名と異なる校区があります。

校区によっては福祉委員会の名称を用いていない校区もありますが、概要版では「福祉委員会」という名称で統一しています。

子ども食堂調査

対象	方法	有効回収率	期間
さかい子ども食堂ネットワークに加盟している子ども食堂(※) 92団体 (令和5年8月時点)	<u>自記式質問紙方式</u> さかい子ども食堂ネットワークの一斉メールを通じて、Webフォームへの回答を依頼しました。	93.5% (86団体)	令和5年 8月7日～ 8月18日 17時まで

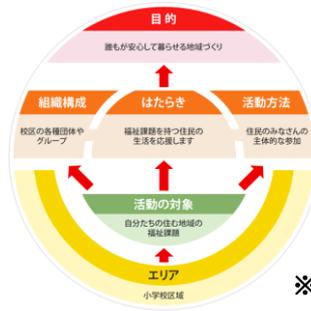
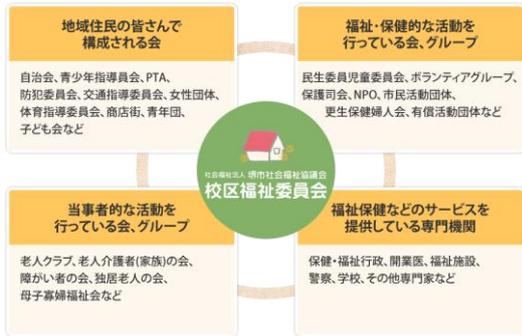
※さかい子ども食堂ネットワークに加盟している子ども食堂を、概要版では「子ども食堂」という名称で記載しています。

団体・機関調査

対象	方法	有効回収率	期間
社会福祉法人、福祉やまちづくりに関するNPO法人、事業所等から、活動・事業の内容をふまえて抽出した 1324団体	<u>自記式質問紙方式</u> 郵送で配付、回収しました。 ※10月18日までに到着した回答を「選択肢項目の集計・記述回答の集約」に、11月13日までに到着した回答は「記述回答の集約」に加えました。	36.7% (475件/ 白紙回答1 件除く) 選択肢項目 の集計は 36.1% (468件)	発送 令和5年 8月28日 返送期限 令和5年 9月15日

堺市の校区福祉委員会活動

地域と市民をつなげる架け橋に



※堺市社会福祉協議会のHPより抜粋



ふれあい喫茶



いきいきサロン



子育てサロン



世代間交流

第1章

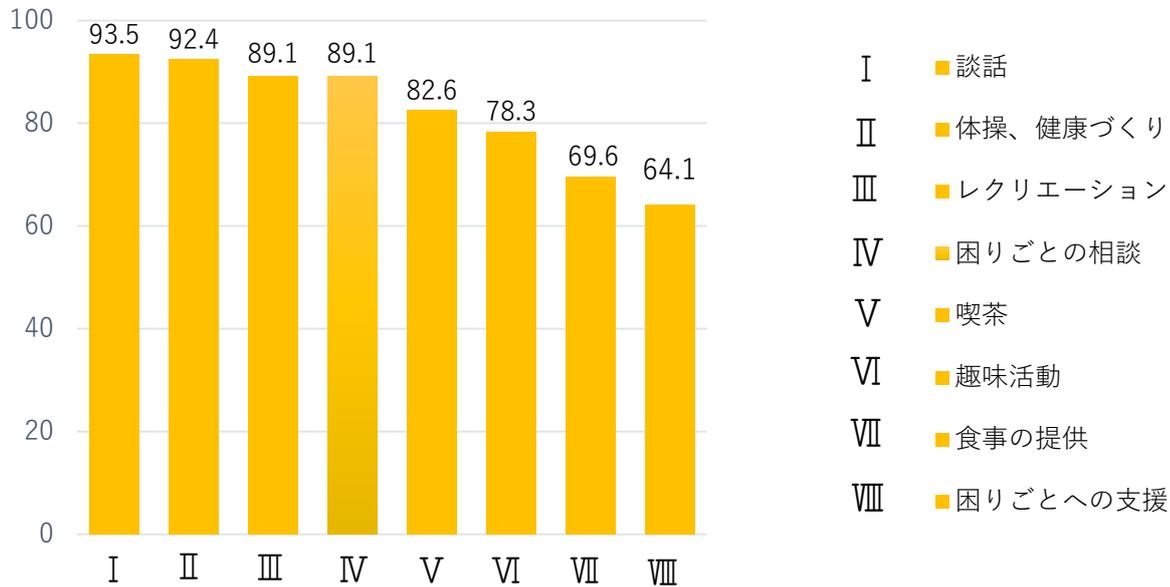
福祉委員会調査

居場所活動(グループ援助活動)の取組と困りごとの相談先

①グループ援助活動全体を通じて、どのような取組をしていますか(複数回答)

【福祉委員会調査 問1より】

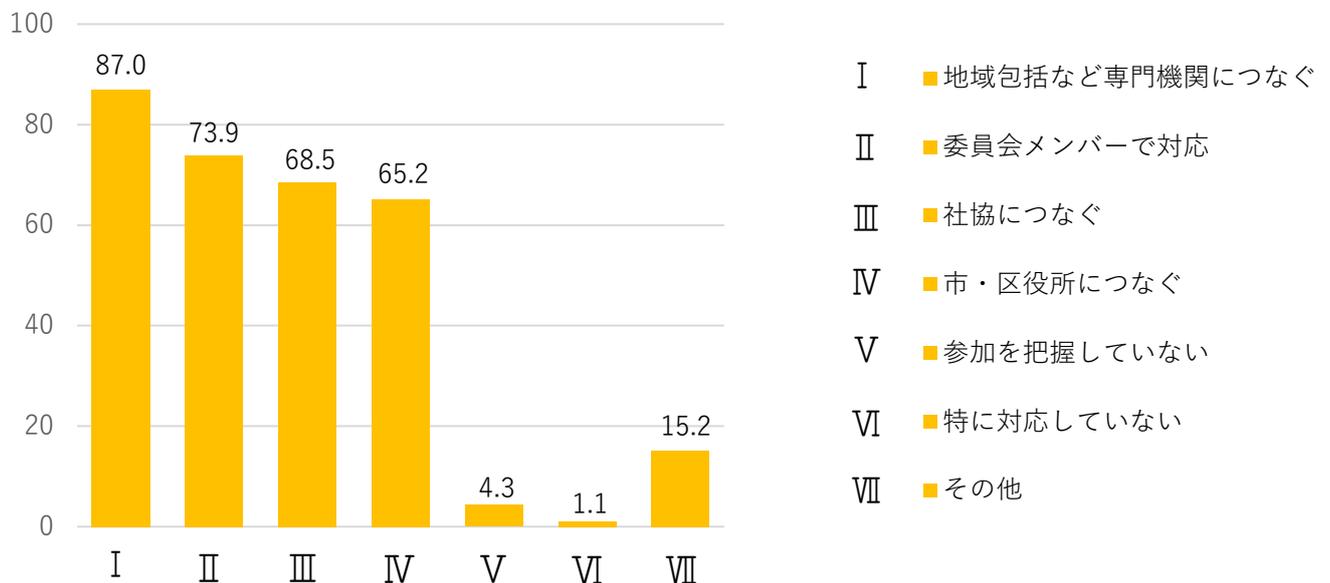
(%)



②グループ援助活動に、生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人が参加された場合は、どのように対応していますか(複数回答)

【問11より】

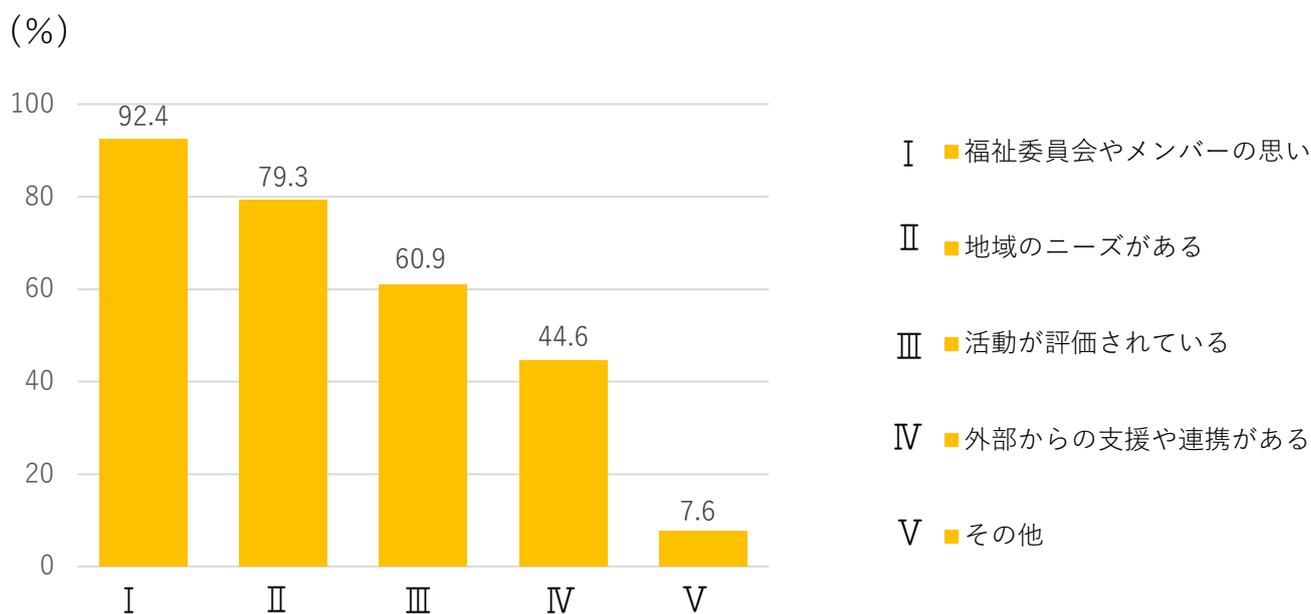
(%)



約9割の福祉委員会が、生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人を「地域包括など専門機関につなぐ」と回答しています。また、7割以上が「福祉委員会のメンバーで対応」、6割以上が「社協につなぐ」「市・区役所につなぐ」と回答しており、各福祉委員会で状況に応じた対応がとられています。

居場所活動(グループ援助活動)を継続できる理由

③グループ援助活動を続けられている要因は、どのようなことだと考えますか(複数回答)
【問18より】



【自由記述より抜粋】

- ◆ 活動をする側がやりがい、楽しさを感じていて、その結果、参加者も楽しんでくれている。
- ◆ 責任者を1人に決めず、数名の有志で工夫して運営していることもうまく継続している理由のひとつ。
- ◆ ボランティア同士のちょっとした声かけ、気配りがモチベーションの維持に大切。
- ◆ 地域の活動が理解されており、参画してくれている。

9割を超える福祉委員会が、「福祉委員会やメンバーの思い」があることを活動継続の理由にあげています。また、参加者が楽しんでくれていることや、メンバーとの良好な関係が活動のモチベーションになっているようです。

ふれあい喫茶

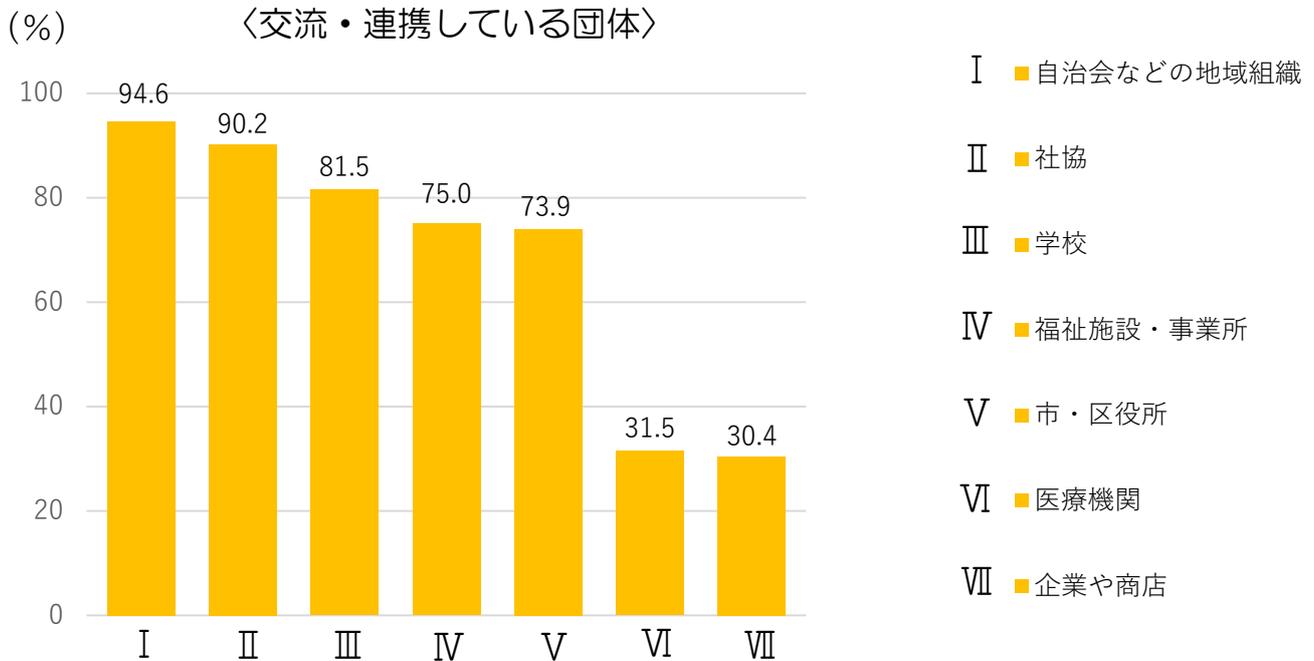
誰もが気軽に立ち寄り、コーヒーやお菓子などを楽しみながら交流できる場です。



居場所活動の団体や活動支援機関との連携

④貴福祉委員会では、居場所活動を行っている団体や活動を支援する機関などと交流や連携はありますか 【問22より】

問22では、98.9%の校区が、「交流・連携する団体や機関がある」と回答されました。交流・連携している団体は下記のグラフのとおりです。



9割以上の福祉委員会が、交流・連携している団体や機関として、「自治会などの地域組織」や「社協」といった、福祉委員会活動に密接な関わりのある団体をあげています。また、約8割が「学校」、7割以上が「福祉施設・事業所」「市・区役所」をあげており、さまざまな団体や機関と交流・連携していることがわかります。

【自由記述より抜粋】

- ◆ 連合自治会、福祉委員会、民生委員会の協力体制がしっかりできている。
- ◆ 地域が一体になって福祉活動に取り組んでいる。
- ◆ やるとなれば一丸となって実行する。福祉、自治、民生の風通しがよい。
- ◆ 社協を中心に情報交換を密にして活動を続けたい。

【自由記述より抜粋】

- 学校との連携が必要。
- 自治会の助けがほしい。
- 近隣校区との連携があればよりよい。
- 専門的知識やそれを有する団体、機関との連携の必要性。
- 関係機関（包括、保健センター、社協等）との連携を希望する。

居場所活動を行う団体や活動支援機関との今後のつながり

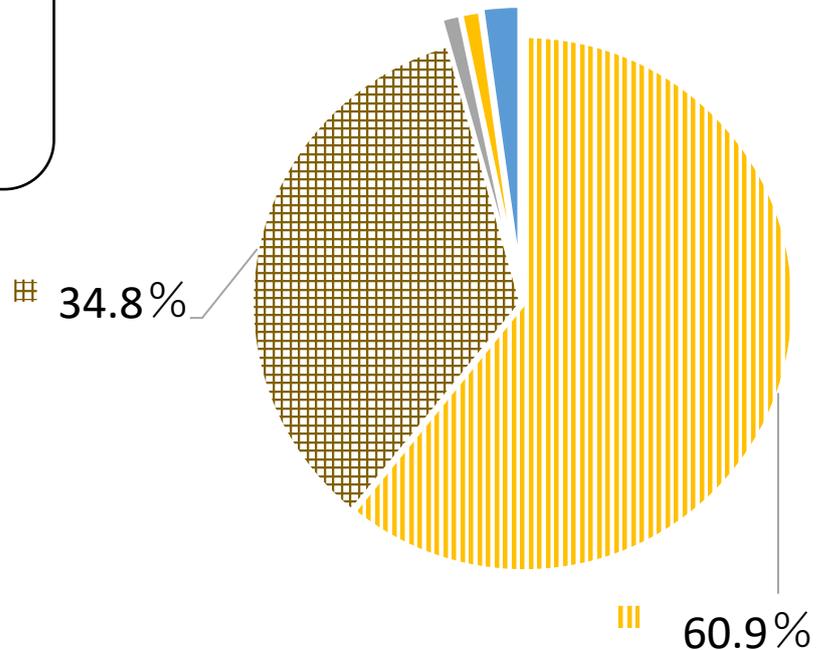
⑤居場所活動を行っている団体や支援機関との交流や連携について、今後どのようにしたいですか 【問23より】

- Ⅲ 現在と同程度の交流や連携をしたい
- Ⅱ 交流や連携を増やす・新たにしたい

■ 特にしたいと思わない

■ わからない

■ その他



約6割の福祉委員会が、「現在と同程度の交流や連携をしたい」と回答しています。一方で、約3割が「交流や連携を増やす・新たにしたい」と回答しており、活動を行ううえで、つながりをつくることに前向きな印象をもつ福祉委員会もあることがうかがえます。

世代間交流

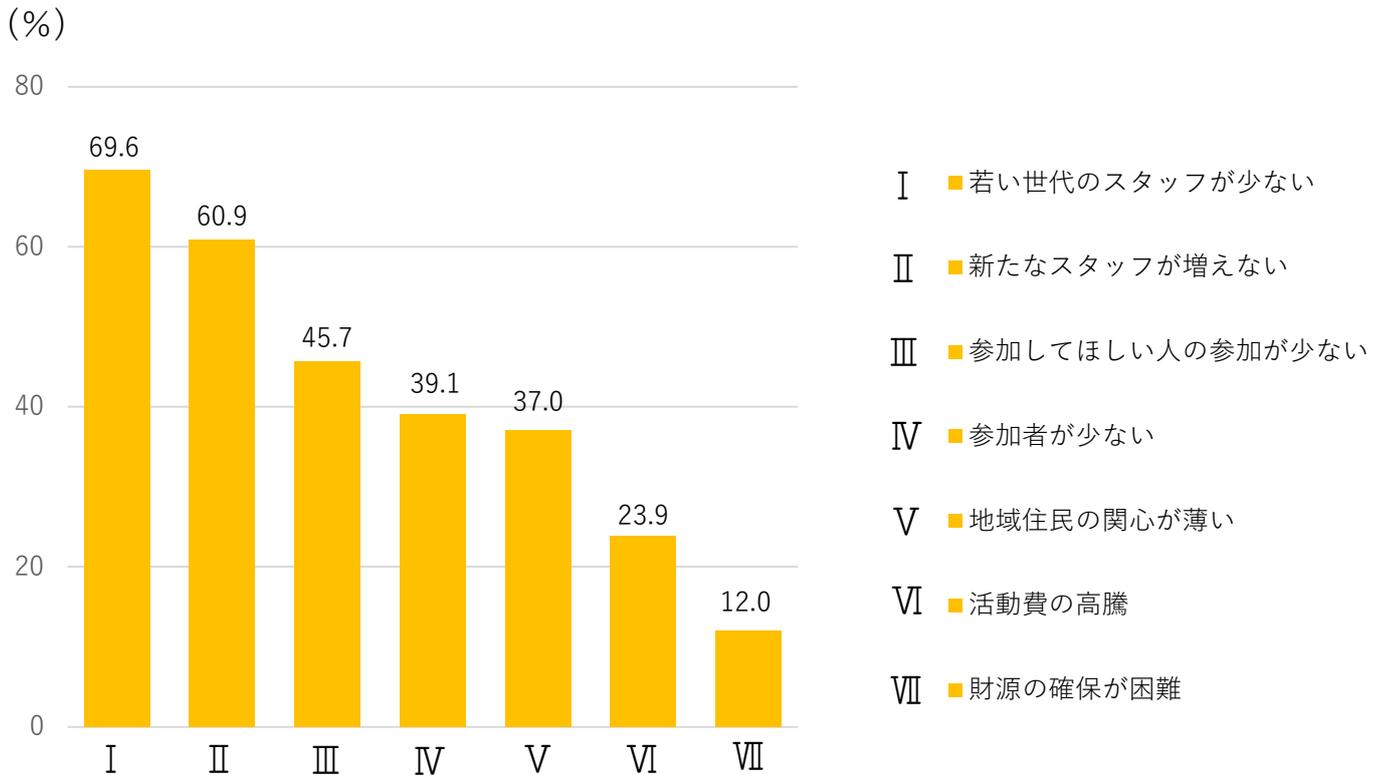
高齢者と子どもが歌やゲーム、昔遊びなどを通じて交流を行っています。



居場所活動(グループ援助活動)の課題

⑥グループ援助活動を行ううえで課題と感じていることがありますか(複数回答)

【問12より】



約7割の福祉委員会が「若い世代のスタッフが少ない」、約6割が「新たなスタッフが増えない」という人材不足に関する課題をあげています。一方で、約45%が「参加してほしいひとの参加が少ない」という活動内容の充実に関する課題をあげています。

【自由記述より抜粋】

- 若い世代のスタッフが入ってこない。
- 担い手不足で民生委員の負担が年々大きくなっている。
- 地域住民の高齢化とそれに伴う孤立化。(自治会脱退など)
- 参加者が固定化されている。参加して欲しい人が参加できていない。
- 人材問題。有償ボランティアなど人が協力しやすい環境がない。
- 外国籍の住民(子育て世代)が増えている。制度についての説明や、交流の場への案内が難しい。

居場所活動(グループ援助活動)で感じた地域のよい点

⑦貴福祉委員会の活動を通じて感じている地域のよい点は、どのようなことですか

【問26より】

【自由記述より抜粋】

- ◆ 地域が一体になって福祉活動に取り組んでいる。
- ◆ 世代を超えてつながれる機会が多い。
- ◆ 参加者の意識が高い。活動内容を考えてくれる。
- ◆ お互いの思いやりとボランティアを仕事と思って手伝ってくれている。
- ◆ 若いスタッフの方が参加してくれている。皆さんが何かにつけ協力的に動いて助け合っています。
- ◆ スタッフが前向き。
- ◆ 行事の後は笑って、楽しさをしっかり感じて帰っていただくことを心掛けている。

地域のよい点として、活動体制、活動の維持や充実、地域での暮らしやすさに関するなどがあげられていました。関係機関と連携がとれていることやボランティアとのつながりなど、各福祉委員会の特徴がうかがえます。また、居場所活動の参加者が楽しんでくれることやスタッフ同士のチームワークのよさなど、人とのつながりをあげている福祉委員会も多くありました。

いきいきサロン

高齢者等を対象にしたレクリエーションや手芸、茶話会を行っています。



HOME

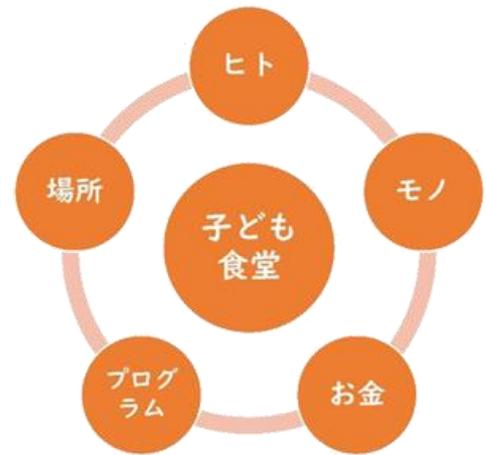
NEWS

子ども食堂を
探す

子ども食堂
ログイン

～子ども食堂への応援イメージ～

※堺市社会福祉協議会のHPより抜粋



～常設型フードドライブ実施中～

～第20回円卓会議～



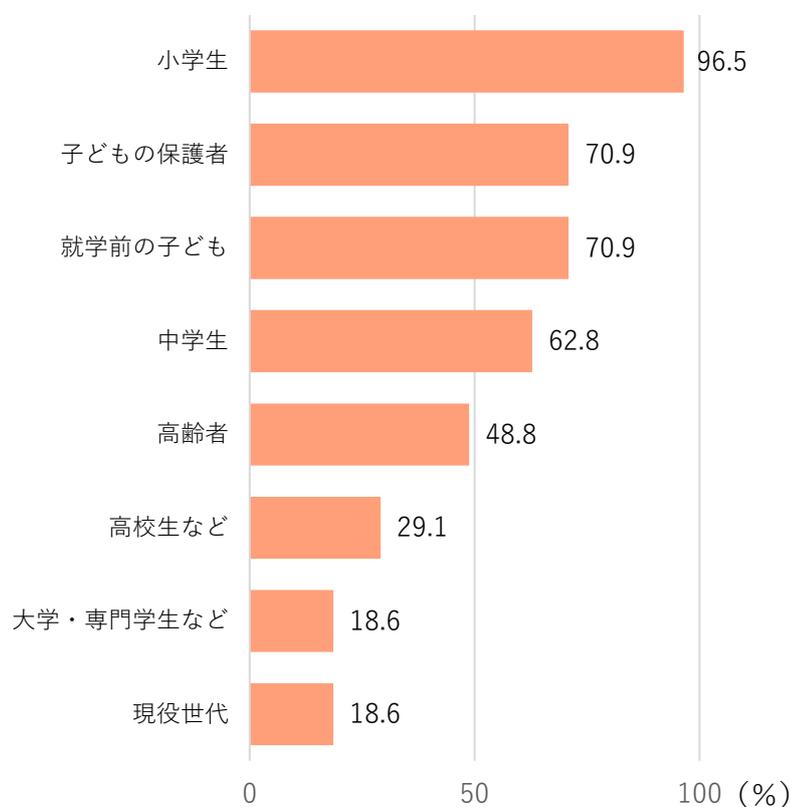
第2章

子ども食堂調査

子ども食堂の活動のきっかけと続けられている理由

①どのような人が子ども食堂へ来ていますか（複数回答）

【子ども食堂調査 問1より】



②子ども食堂をはじめた動機やきっかけはどのようなことですか（複数回答）

【問10より】

【自由記述より抜粋】

- ◆ 子どもたちへの思い。
- ◆ 食の支援を通して地域の人と関わり、困りごとのある人に寄り添うような活動をしたかったと思った。
- ◆ 子育て中のママやパパを応援し、悩んだときに相談でき、頼れる場所になりたいと思った。
- ◆ 地域の子育て世代の交流の場づくりに共感してくれているメンバーがいた。

【自由記述より抜粋】

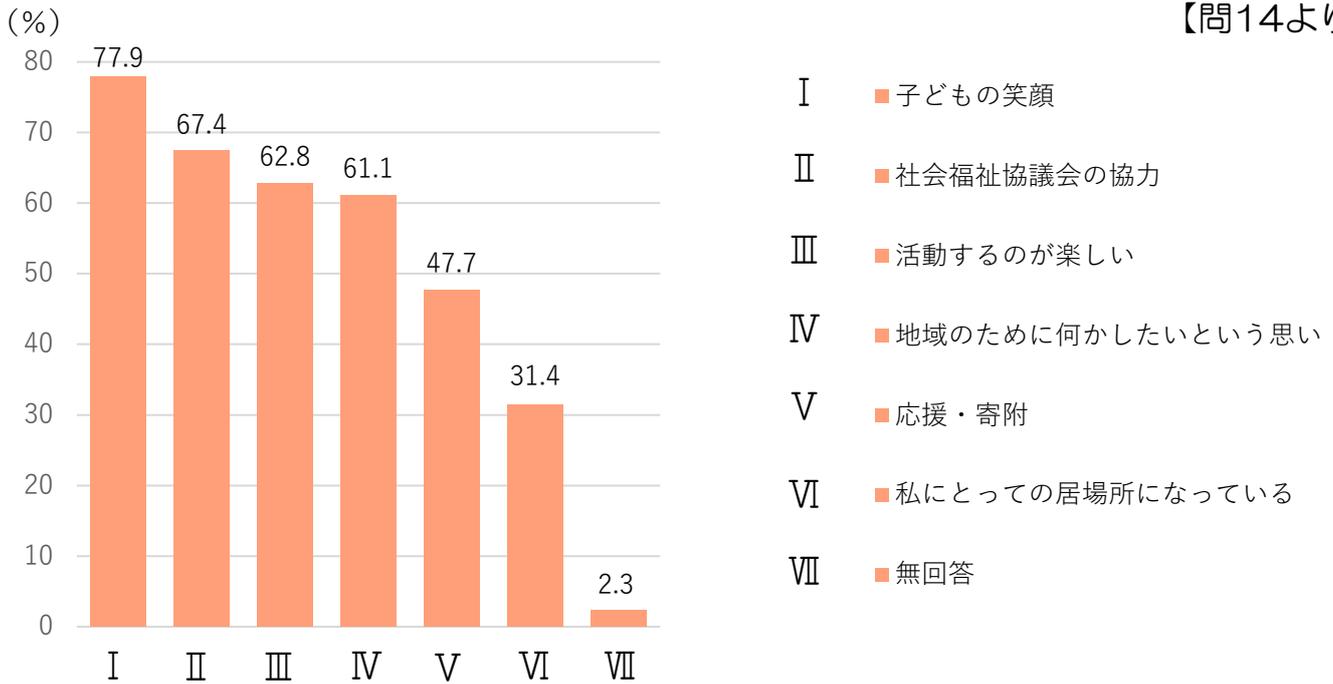
- 地域での子どもの居場所が公園以外になかったことを知ったから。
- 地域と子どもとの関係が希薄になってきたと感じた。

【自由記述より抜粋】

- ★ みそ汁を知らない子どもとの出会いがあった。
- ★ 朝ごはんを食べてこない子どもや虫歯が多い子どもがいることを知った。

③子ども食堂を続けられている理由はどのようなことだと思いますか（複数回答）

【問14より】



「子どもの笑顔」と回答された団体が約8割近く、活動を続けるモチベーションにつながっていることがわかります。また「地域のために何かしたいという思い」や子ども食堂の活動にニーズがあることなど、地域への関心の高さがうかがえるとともに、活動自体が楽しいと感じられることも続けられる要因になっています。

【自由記述より抜粋】

- ◆ ずっと続けていると、子ども食堂に参加してくれていた子たちが高校生になり、ボランティアとして戻ってきてくれるので、自然と帰って来れる居場所になっていたのだと気づけた。
- ◆ コツコツと続けていく中で、居場所に来ることができない方とのつながりも出来ており、いずれ気兼ねなく来てもらえるように、たゆまず声かけを続けていきたい。

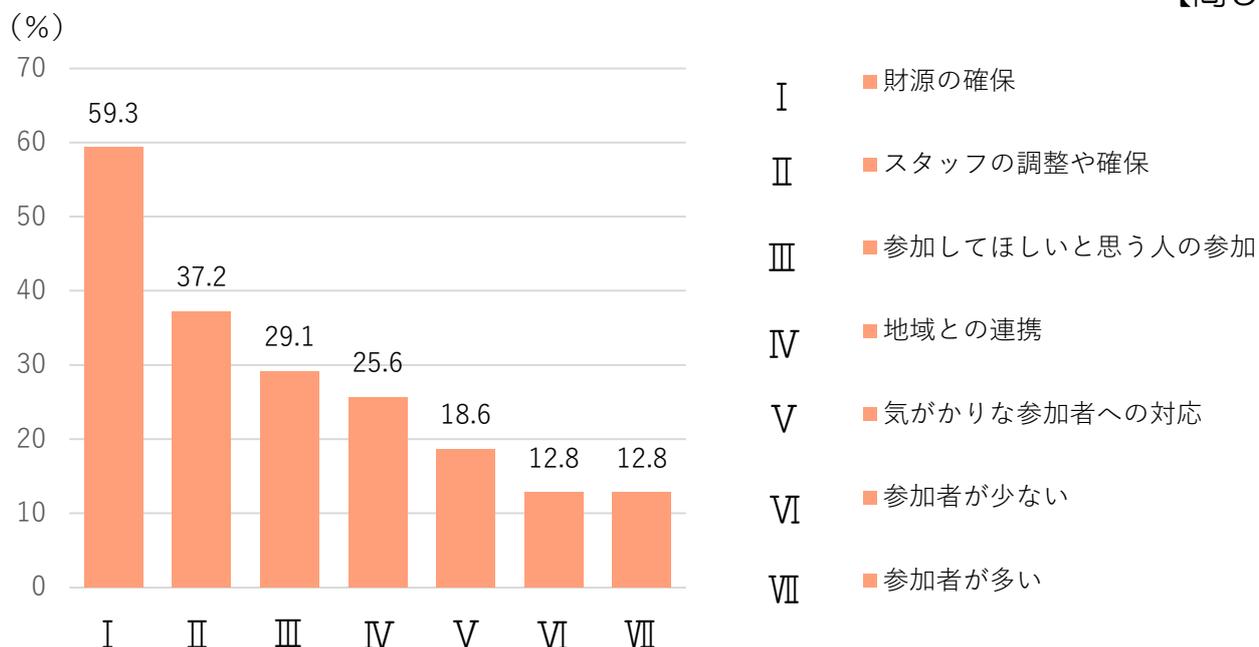
【自由記述より抜粋】

- 地域の中で本当に必要とされる子ども食堂が明確ではなく、試行錯誤しながら運営している。

子ども食堂を続けていく上での課題

④子ども食堂の活動で、課題だと感じていることはありますか（複数回答）

【問9より】



【自由記述より抜粋】

- 後継者不足の悩み。
- 災害への日ごろの備えが全くできていないように感じ、居場所がない状況の子どもたちが被災したらどんな環境に放り込まれるのかが不安である。
- 回を重ねるごとに参加希望者が増え、ありがたいなと思うと同時に施設のキャパ上、人数制限を設ける必要があり葛藤している。
- 物資や活動費の為に財源の確保が大変。

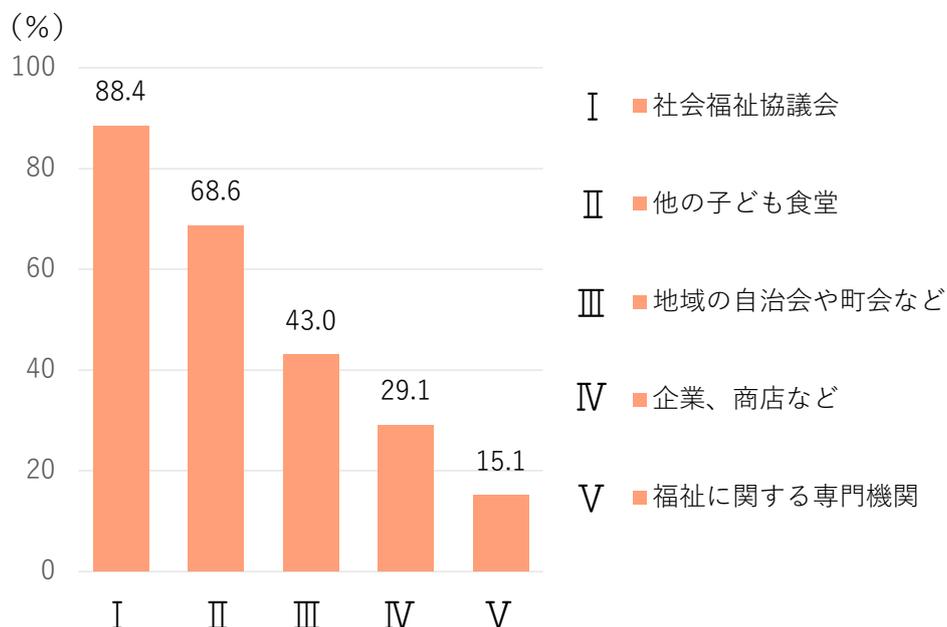
参加者が多い、少ないことをいずれも約1割弱があげていますが、それら以上に「参加してほしいと思う人の参加」を課題とあげている団体が約3割となっています。

一方で、「気がかりな参加者への対応」も約2割があげており、支援が必要な子どもの参加と支援をいっそう進めることの必要性も認識されているようです。

他にも、「子ども食堂のあり方」や「子どもや子育ての課題」などに関連した回答がありました。

子ども食堂と地域の連携について

⑤子ども食堂の活動の中で、他の団体や機関などのかかわりがありますか（複数回答）
【問18より】



「社会福祉協議会」とのかかわりが最も多く、約9割となっています。

次いで、約7割の子ども食堂が「他の子ども食堂」とかかわりがあり、子ども食堂同士でつながりができている様子が見えがえします。

⑥具体的にどのようにかかわっていますか 【問19より】

【自由記述より抜粋】

- ◆ 事業所などからの食糧や物資の支援。
- ◆ 就労支援の事業所での野菜の購入。
- ◆ 他の子ども食堂とグループLINEやメールでの交流。
- ◆ ボランティアとしての協力など。

⑦今後かかわってみたい団体や機関などがあれば教えてください（複数回答） 【問20より】

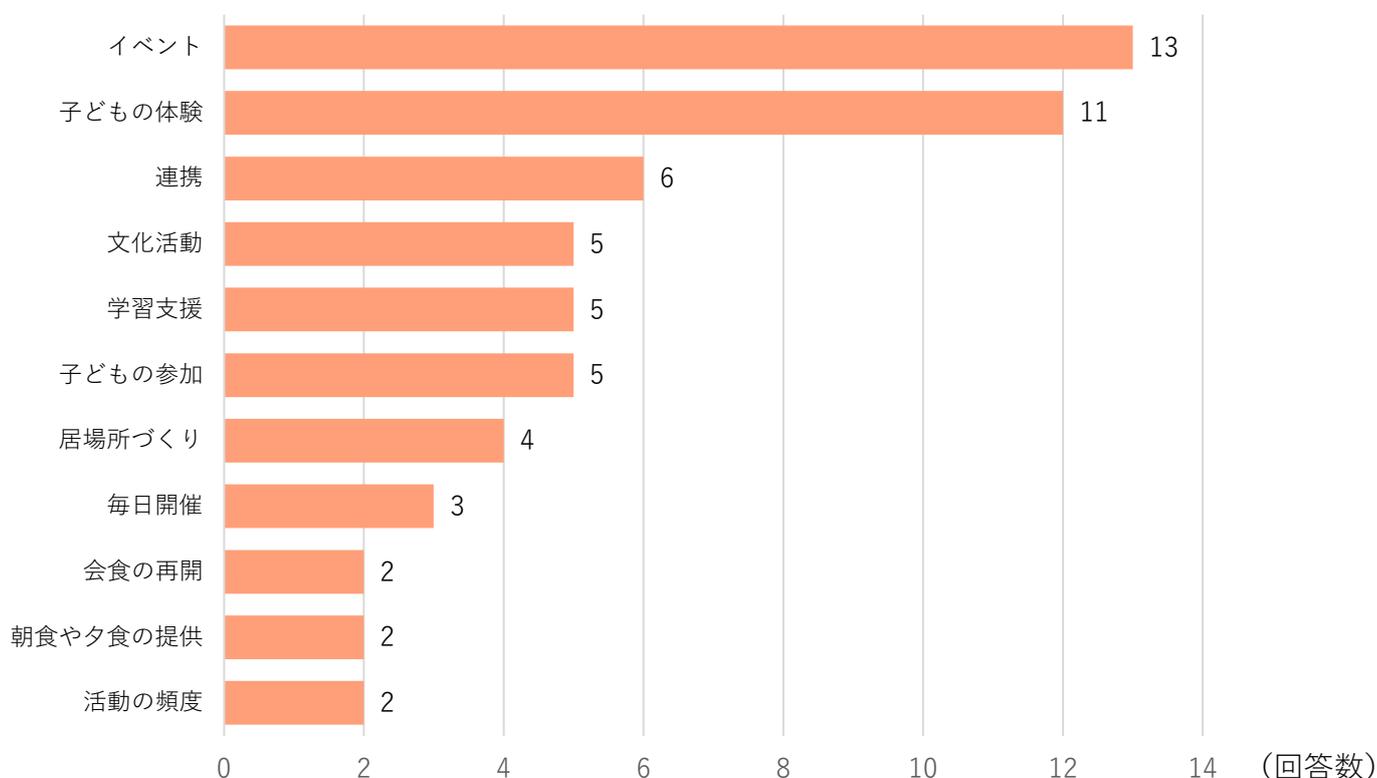
【自由記述より抜粋】

- ◆ 大学や専門学校の福祉や教育に関心のある学生や先生、大学生のボランティア。
- ◆ 市内の企業に地域貢献活動として子ども食堂の活動へのご理解と支援について相談し、参加者に楽しんでもらえる企画を考えていきたい。
- ◆ 発達障害の子どもたちを支えるフリースクールで対応している方や団体。

これからの活動について

⑧今後の活動でやってみたいことがあれば教えてください（複数回答）

【問16より抜粋】



【自由記述より抜粋】

- ◆ 子どもが喜ぶイベントで、お店屋さんごっこ、夏祭り、子ども縁日、駄菓子屋さんなどが企画したい。
- ◆ デイキャンプも行っているが、色々なことを経験する機会を増やしていきたい。
- ◆ 子どもたちと一緒に料理を作りたい。
- ◆ 他の子ども食堂との運動会などの交流。
- ◆ 学校に行きづらい子ども達が来れる場所として午前中または午後から常時開設し、日替わりでのイベントなど開催をめざしたい。
- ◆ 人形劇や音楽会など子どもたちの体験をもっと増やしたい。
- ◆ 振り向いたとき、そこにいる人になれる様に継続して活動を続ける。

「子どもたちといっしょに同じ時間を過ごしたい」や「子どもたちが、様々な経験を得る機会を増やしたい」など、今後の取組に前向きな意見が多くありました。

第3章

団体・機関調査

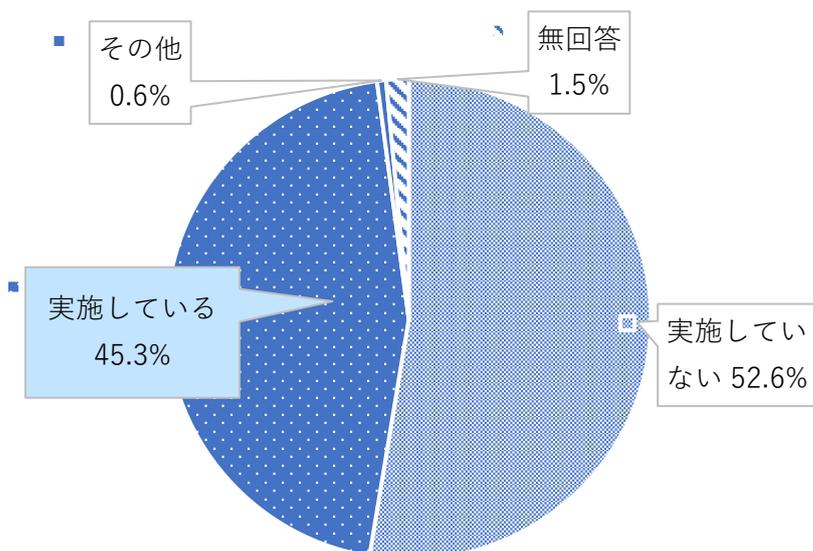
本来の業務として行う居場所活動について

<本調査にご回答いただいた団体・機関が行っている事業の分野（複数回答）>

【団体・機関調査 問1より】

分野種別	障害福祉	児童福祉	高齢福祉	地域福祉	教育	地域・まちづくり	その他	保険・医療	文化・芸術	スポーツ
事業分野(%)	37.6	34.2	31.6	10.9	10.3	10.3	4.9	3.2	3	2.1

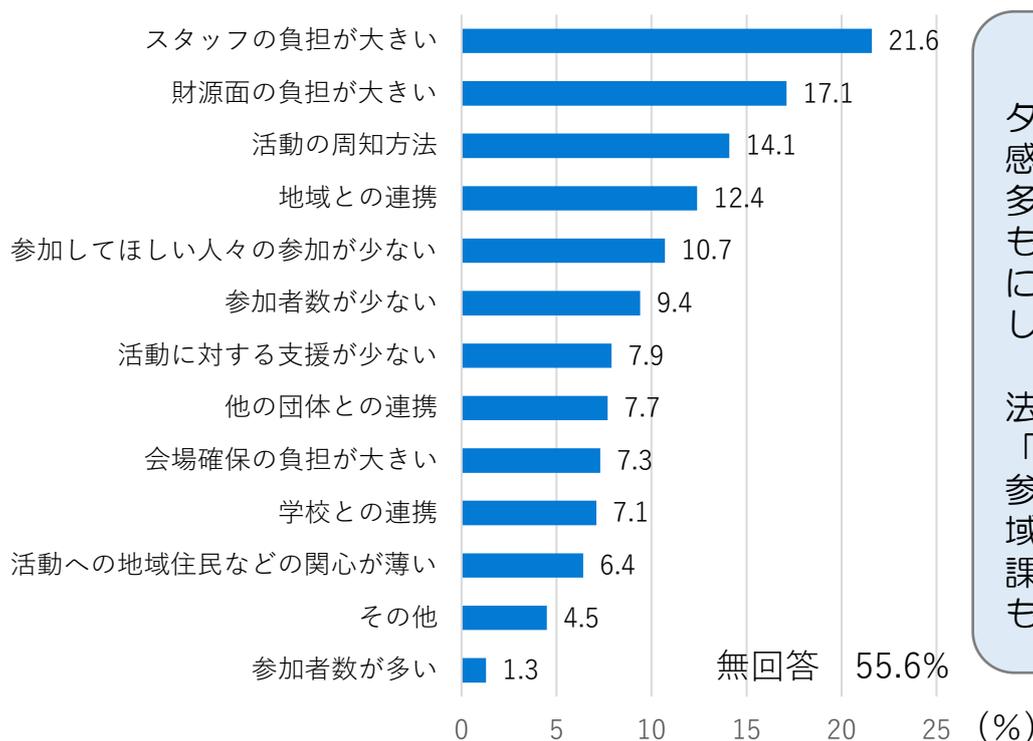
①貴団体では、本来の業務として地域住民などの居場所となる場やサービスを提供する事業を実施していますか 【問2より】



本来の業務として「地域住民などの居場所となる場やサービスを提供している」と考えている団体等は、5割弱と半数近くになっています。団体によって、デイサービス等を居場所となる場なのか、福祉サービスだと考えるのか判断に差がある回答もありました。

②居場所活動を実施するうえで課題だと感じていることがありますか（複数回答）

【問9より】



活動を行ううえで、スタッフや財政面の負担を感じている団体等が最も多く、自由記述の項目でも、人材不足や業務負担に関する課題が見られました。

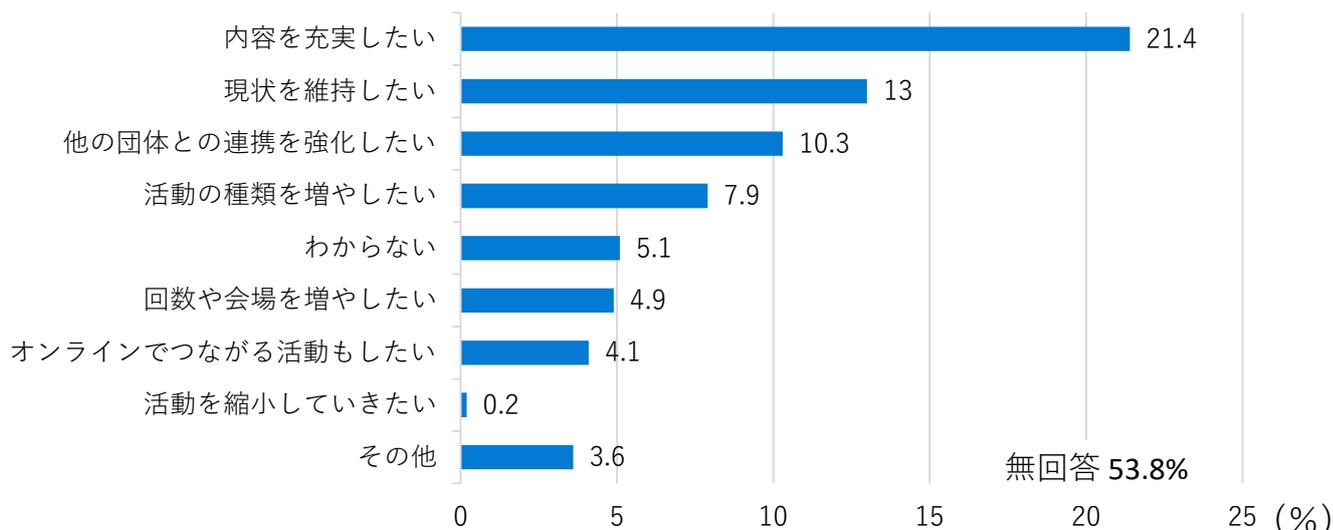
また、「活動の周知方法」や「地域との連携」、「参加して欲しい人々の参加が少ない」など、地域とのつながりに関する課題を感じている団体等も多くいます。

【自由記述より抜粋】

- 子育てに困難を抱える家庭や孤立している保護者をどのように居場所まで誘い出せるかが課題である。
- 地域の世話役の方が高齢となっているので、サロンなどの取組の際に当園職員が中心にあそびを実施している。

③居場所活動について、今後、どのようにしたいと考えていますか（複数回答）

【問10より】



「内容を充実させたい」と答えた団体等が2割以上と最も多く、「連携を強化したい」と考える団体等も1割あり3番目に多く見られました。一方で居場所活動の「現状を維持したい」との回答は13%と2番目に多くなっています。

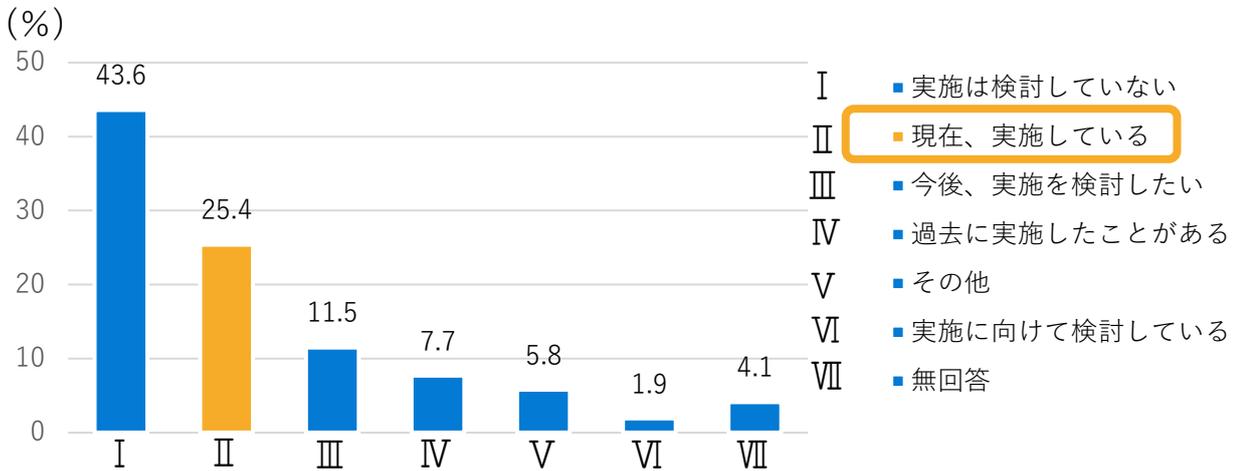
【自由記述より抜粋】

- ◆ 家で1人で子育てをされていてひきこもりがちの人にもっと気軽に遊びに来て欲しい。子育ての悩みや情報交換などができる場にしたい。
- ◆ 障害児への支援を主体とした同じような事業を展開してるところがあればつながりたいと感じる。情報共有などできればと思う。
- ◆ 私たちは子育て支援に取りくんでいます。堺市は中学校区に1つということで「ひろば」を進めてきました。随分助かったという声を聞いています。でもそこで終わりではなく小学生、中学生の子ども、親たちの声も深刻です。不登校や引きこもりなど身近で支えていけたらと思います。

地域貢献としての居場所活動について

●本来の業務以外で行う地域貢献としての「居場所活動」についておたずねします。

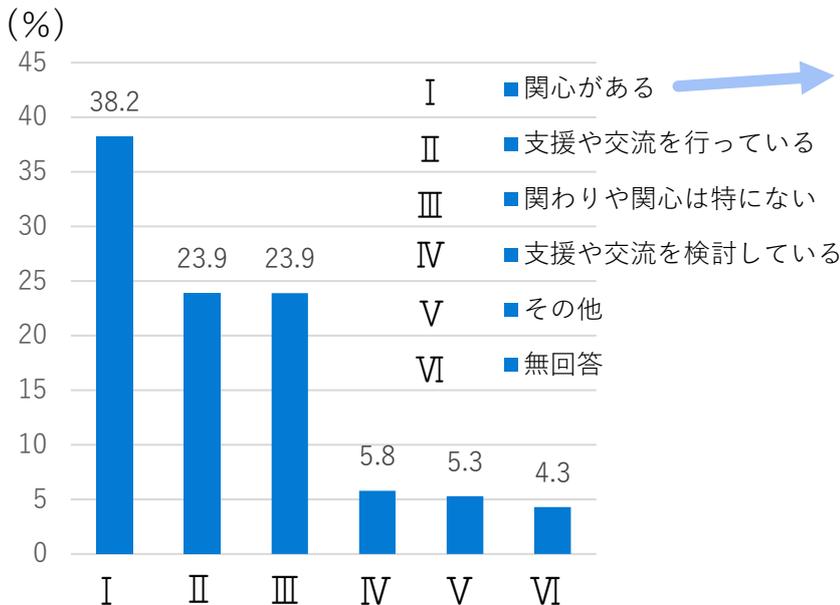
④貴団体等は、子ども食堂やサロン、喫茶活動など、地域住民が気軽に参加し、交流や相談などができる居場所活動を実施していますか 【問3より】



【自由記述より抜粋】

◆職員の中に保護者（地域の親子）の相談交流の場をつくりたいと考えている人がいるので、つくっていきたい。

⑤他の団体や機関などが行っている地域の居場所活動について、関わりや関心をおもちですか（複数回答） 【問4より】



⑥どのような居場所活動に関わりや関心をおもちですか（複数回答） 【問5より】

集いの場（サロン等）	…36.8%
子ども食堂	…25%
フリースペース	…19%
喫茶活動	…16%
サークル活動	…15.2%
現在は関わりがない	…28.8%
その他	…8.8%
無回答	…9%

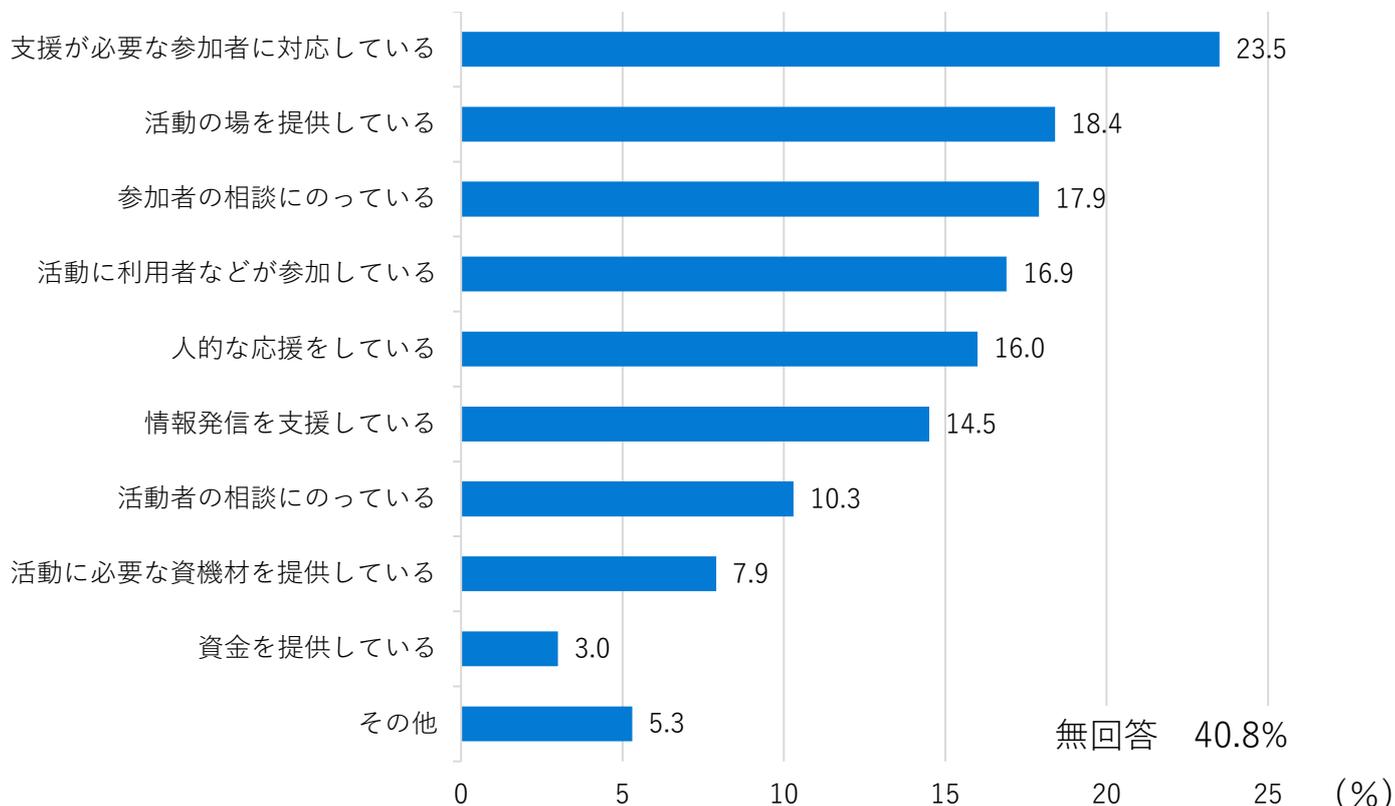
「地域の居場所活動に関心がある」と回答した団体等が最も多く、4割近くとなっています。

次いで、2割以上の団体等が、「支援や交流を行っている」と回答しています。

地域や他団体の居場所活動への支援や交流について

●地域で居場所活動を行っている団体等への支援や交流を行っている、もしくは関心がある団体等におたずねします。

⑦行っている、もしくは行ってみたい・関心がある支援や交流は、どのようなことですか（複数回答） 【問11より】



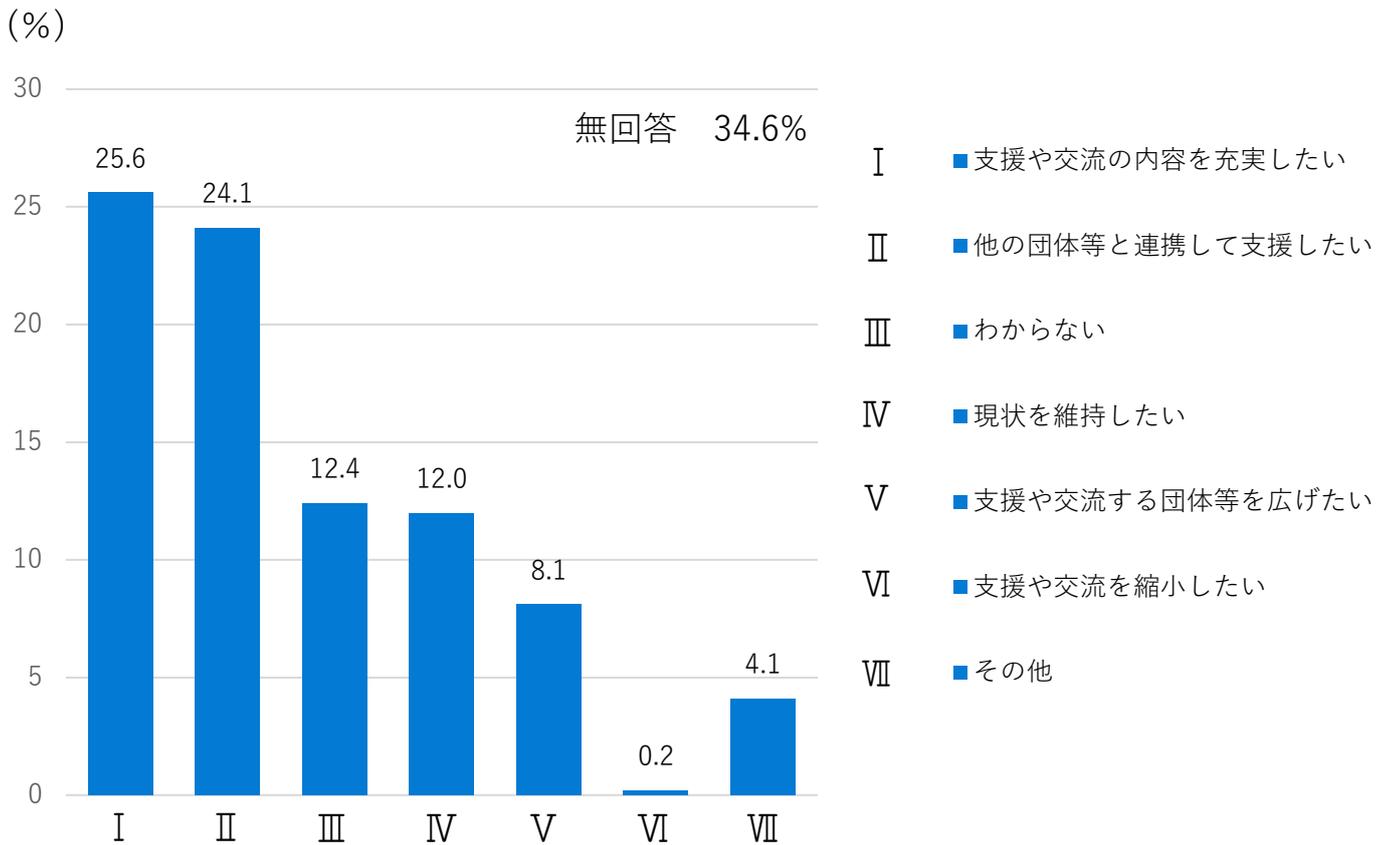
「支援が必要な参加者への対応」が23.5%と最も多く回答されており、多様な居場所のひとつとして「支援型」の活動に対する可能性の高さが示されています。

また、活動の場の提供や人的な応援はどちらも2割近くの回答があり、地域の資源としての役割も期待されます。

【自由記述より抜粋】

- ◆ 希薄になりつつある近隣同士のお付き合いを、地域交流や防災訓練を通じて一定保っていければと思います。
- ◆ 当事業所は就労支援の事業所ですが、生活面での支援というほどのサポートではなくても利用者さんが「顔を出せる場所」があるといいなあと感じることがあります。

⑧地域の居場所活動への支援や交流について、今後、どのようにしたいと考えていますか
(複数回答)【問12より】



「支援や交流の内容を充実したい」との回答が最も多くなっています。

また、ほぼ同じ割合で「他の団体等と連携して支援したい」との回答が多くなっています。内容の充実だけでなく、そうした団体等の協働をコーディネートすることにより、支援等の内容の充実や、今回の調査で示されたような課題の負担軽減にもつながることが期待されます。

【自由記述より抜粋】

- ◆ 児童養護施設の子どもとの交流ももっと行いたいと考えている。
- ◆ それぞれの機関、場所ではすでに様々な課題に取り組まれていると思います。少しずつ支援が重なっているところを意識するだけでも、地域の支援力が高まると思うので、我々も重なりを意識していこうと思います。
- ◆ 居場所活動が支援者の連携の場としても機能することを期待します。

【自由記述より抜粋】

- 地域とのよりよい関係性をつくりたいが、現場以外、外へ出かけてつながりを構築していくところに時間がさけない。
- 1つの団体ですべての運営をすることが、大きな負担になっていることがある。せっかくの活動が継続できなくなることが懸念される。

おわりに

堺市社協は、皆様にご協力をいただき、「居場所活動に関するアンケート調査」を実施しました。「福祉委員会」「子ども食堂」「団体・機関」のそれぞれの調査で、皆様から居場所活動への思いや、活動の現状についてお聴きすることができました。

堺市内では、誰もが参加でき、ふれあうことをめざす「交流型」や、暮らしの中の困りごとをもつ人とつながりをつくりながら、必要な相談支援や福祉サービスなどにつなぐ「支援型」の居場所活動が取り組まれています。また、新たなニーズに基づいた、さまざまな「テーマ型」の居場所活動も広がっています。

皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、堺市社協は、地域の実情に応じた支援や協働の輪を広げ、居場所活動を推進するための具体的な取組をすすめていきます。



居場所活動に関するアンケート調査報告書
【概要版】
令和6年2月発行

発行：社会福祉法人 堺市社会福祉協議会 地域福祉課 地域共生推進係
〒590-0078 堺市堺区南瓦町2-1
TEL 072-232-5420 FAX 072-221-7409
☒:chiikifukushika@sakai-syakyo.net